

区 分	専門科目－福祉マネジメント科目	担当教員	藤本 風明			
授業科目	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度					
英 訳	Services for children and their families & Family welfare system					
配当年次	1 年次	前 期	必選別	選 択	単位数	2 単位
【授業の概要】 児童が健やかに、幸せに育っていくために必要な各種の福祉制度やサービスについて学ぶ。さらに、児童と家庭が現在置かれている環境問題の把握を踏まえながら、必要な福祉制度やサービスについて学ぶ パソコン(パワーポイント)活用						
【授業の目的】 学生各位に、社会福祉部門における、児童を取り巻く問題、あるいは児童が暮らす家庭環境に生じている問題を理解し、問題解決のための、制度や市民活動あるいは運動についてその実態を理解させることで、学生の関心を高揚する						
【到達目標】 児童・家庭の生活実態とそれを取り巻く社会情勢・福祉需要について理解する 児童・家庭福祉制度の発展課程について理解する。児童の権利について理解する 相談援助活動において必要となるその他の法制度について理解する						
【準備学習(予習・復習)】 教科書の次回の章を、読んでくることを奨励する。 授業で配布したプリントを再学習すること、ノートを再検証することを奨励する。						
【授業計画】 第 1 回 児童福祉関係や児童・家庭福祉が、社会福祉や社会保障の分野でたつ位置について 第 2 回 現代社会と子ども家庭 第 3 回 子ども家庭福祉とは何か 第 4 回 同上 第 5 回 子ども家庭福祉に関わる法制度 第 6 回 同上 第 7 回 同上 第 8 回 同上 第 9 回 同上 第 1 0 回 子ども家庭福祉にかかわる福祉・保健 第 1 1 回 同上 第 1 2 回 同上 第 1 3 回 子ども家庭への援助活動 第 1 4 回 子ども・子育て支援制度について 第 1 5 回 まとめ						
【教科書】 『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』 2016 中央法規出版 (新・社会福祉士養成講座 第15巻)						
【参考書】社会福祉(保育ライブラリー保育・福祉を知る)北大路書房 2014 担当教員執筆分 社会福祉士の合格教科書 2017 医学評論者 社会福祉士模擬問題集 中央法規						
【成績評価基準】 期末試験(70%)、授業への出席率及び授業中の学習態度及び課題対応など(30%)						
【メッセージ】 社会福祉士国家試験受験資格の必須科目です。 担当教官は社会福祉士及び現場実践経験者、社会福祉士を旨として学習に取り組んで欲しい。						

区 分	専門科目－福祉マネジメント科目	担当教員	乗末 郁恵			
授業科目	人体の構造と機能及び疾患					
英 訳	Human body structure, function and diseases					
配当年次	1 年次	前 期	必選別	選 択	単位数	2 単位
【授業の概要】 身体の構造や機能の障害から起こる疾患について教授する						
【授業の目的】 身体の構造や機能の異常から起こる疾患や障害について理解する						
【到達目標】 人体のしくみの基礎を学び、身体の異常や変化に気づける						
【準備学習(予習・復習)】 次回の予定範囲の事前学習が望ましい						
【授業計画】 第 1 回 人の成長と発達：身体・精神 第 2 回 人の成長と発達：老化 第 3 回 人体の構造：部位・名称 第 4 回 体液・恒常性の維持 第 5 回 循環器系・呼吸器系 第 6 回 腎・消化器系 第 7 回 内分泌系・生殖器系 第 8 回 脳・神経系 第 9 回 生活習慣病とは 第 10 回 がん 第 11 回 脳血管疾患・高血圧 第 12 回 心疾患・糖尿病 第 13 回 消化器・呼吸器疾患 第 14 回 腎・泌尿器疾患 第 15 回 感染症						
【教科書】 授業で指定する						
【参考書】 適宜資料を配布する						
【成績評価基準】 筆記試験を60% レポート点を20% 平常点を20% で評価する 15回のうち6回以上の欠席は成績評価しない						
【メッセージ】						

区 分	専門科目－福祉マネジメント科目	担当教員	藤本 風明			
授業科目	相談援助の基盤と専門職					
英 訳	Foundation for social work and professionals					
配当年次	1 年次	前・後 期	必選別	選択	単位数	4 単位
【授業の概要】 社会福祉の基礎となる、相談援助における専門職としての必要な倫理及び知識を学ぶ。集団的な討論、意見交換も踏まえ、問題を発見し、解決の方向を探っていくことを重視する授業とする。又、社会福祉全体の入門的な位置づけでの学習もする。パソコン(パワーポイント)活用。						
【授業の目的】 学生各位に、社会福祉分野全体の仕組みや構造を理解してもらったうえで、社会福祉の基礎となる相談援助の成り立ちからはじめて、現在での技術や理論、倫理について学習し、社会福祉全体への関心の高揚するパソコン (パワーポイント) 活用、ビデオ使用						
【到達目標】 社会福祉の全体の仕組みを理解し、かつ相談援助に係る専門職の概念と範囲及び役割と意義について理解するとともに、相談援助の概念、範囲、及び理念について理解する。						
【準備学習(予習・復習)】 教科書の次回の章を、読んでくることを奨励する。授業で配布したプリントを再学習すること、ノートを再検証することを奨励する。						
【授業計画】 第 1 回 社会福祉全体の仕組みと構造 第 2 回 社会福祉の仕事、社会福祉士の仕事 第 3 回 社会福祉士の役割と意義 第 4 回 社会福祉士の働く地域の構造 第 5 回 相談援助の定義と構成要素 ソーシャルワークの概念 第 6 回 ソーシャルワークの構成要素 第 7 回 相談援助の形成過程Ⅰ ソーシャルワークの源流 第 8 回 ソーシャルワークの基礎確立期 第 9 回 同上 第 10 回 相談援助の形成過程Ⅱ ソーシャルワークの発展期 第 11 回 ソーシャルワークの展開期 第 12 回 ソーシャルワークの統合化 第 13 回 相談援助の理念Ⅰ ソーシャルワーカーと価値 第 14 回 ソーシャルワーク実践と価値 第 15 回 ソーシャルワーク実践と権利擁護						
【教科書】 『相談援助の基盤と専門職』 2015 中央法規出版 (新・社会福祉士養成講座 第6巻)						
【参考書】 社会福祉 (保育ライブラリー保育・福祉を知る) 北大路書房 2014 担当教員執筆分 社会福祉士の合格教科書 2017 医学評論社 社会福祉士模擬問題集 中央法規						
【成績評価基準】 期末試験(70%)、授業への出席率及び授業中の学習態度及び課題対応など(30%)						
【メッセージ】 社会福祉士国家試験受験資格の必須科目です。担当教員は社会福祉士及び現場実践経験者、社会福祉士を旨として学習に取り組んで欲しい。						

区 分		担当教員	
授業科目			
英 訳			
配当年次	年次	期	必選別
			単位数
			単位
【授業の概要】			
【授業の目的】			
【到達目標】			
【準備学習(予習・復習)】			
【授業計画】 第16回 相談援助理念Ⅱ クライエントの尊厳と自己決定 第17回 ノーマライゼーションと社会的包摂 第18回 専門職倫理と倫理的ジレンマ 第19回 同上 第20回 同上 第21回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像 第22回 同上 第23回 同上 第24回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論 第25回 同上 第26回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲 第27回 同上 第28回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能 第29回 同上 第30回 全体を通してのまとめ			
【教科書】			
【参考書】			
【成績評価基準】			
【メッセージ】			

区 分	専門科目－福祉マネジメント科目	担当教員	藤本 風明			
授業科目	就労支援サービス					
英 訳	Services for supporting to get employment					
配当年次	2年次 前期(夏期集中)	必選別	選択	単位数	1単位	
【授業の概要】 就労支援を必要とする人に対する支援制度について理解する。事例なども紹介しながら、集団討議や意見交換等も踏まえながら、その仕組みや法体系などを理解する。 パソコン(パワーポイント)活用						
【授業の目的】 就労支援が必要な人々は、障害者、刑を終えた人、ひとり親、生活保護の受給者または保護にはいたらないが支援が必要な人、ホームレスの状態にある人などである。就労を支援することを通じて、人々の自立につながっていくことを学習する						
【到達目標】 就労支援に関する制度について理解する。就労支援に係る組織・団体および専門職について理解する。就労支援分野外との連携について理解する						
【準備学習(予習・復習)】 集中広義なので、事前に通り教科書に目を通しておくことを奨励する ミニテストや無配布資料を集中講義終了後に再確認することを奨励する						
【授業計画】 7.5コマ分 第1回 働くことの意味と社会福祉士等専門職の役割 第2回 雇用・就労の動向と施策 第3回 障害者と就労支援 第4回 障害者と就労支援 第5回 低所得者と就労支援 第6回 専門職の役割と実際 第7回 就労支援の連携と役割 第8回 まとめ(さまざまな働き方の支援)						
【教科書】 『就労支援サービス』2016年 中央法規出版 (新・社会福祉士養成講座 第18巻)						
【参考書】 社会福祉(保育ライブラリー保育・福祉を知る)北大路書房 2014 担当教員執筆分 社会福祉士の合格教科書 2017 医学評論社 社会福祉士模擬問題集 中央法						
【成績評価基準】 集中講義なので、討論や意見発表、授業中の態度、及びミニテスト等から総合的に評価する。						
【メッセージ】 社会福祉士国家試験受験資格の必須科目です。担当教官は社会福祉士及び現場実践経験者。社会福祉士を旨として学習に取り組んで欲しい。						

区 分	専門科目－福祉マネジメント科目	担当教員	藤本 風明			
授業科目	低所得者に対する支援と生活保護制度					
英 訳	Support the low-income class and Public Assistance					
配当年次	2年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 公的扶助制度・生活保護制度は現代社会においては最後のセーフティネット称せられ、健康で文化的な国民生活の最後の砦とされる。日本国憲法との関係からこの点を学ぶ。同時に近年整備されてきている低所得者対策の方策も学ぶ。パソコン（パワーポイント）活用、ビデオ使用						
【授業の目的】 社会福祉は、貧困対策として、資本主義国の発展とともに、整備されてきた歴史をもつ。つまり、社会福祉の原点は貧困対策という事でもある。貧困や公的扶助を理解することは、社会福祉の基礎を理解することでもある。この点を抑えることに努める。						
【到達目標】 公的扶助は、生活保護法と低所得者対策から形成される。憲法25条の生存権をベースとする生活保護法を理解する。同時に、低所得者対策としての生活困窮者自立支援法なども理解する。これらを通じて、社会福祉や社会保障の仕組み全体を理解する。						
【準備学習(予習・復習)】 教科書の次回の章を、読んでくることを奨励する。 授業で配布したプリントを再学習すること、ノートを再検証することを奨励する。						
【授業計画】 第 1回 公的扶助の概念 第 2回 貧困・低所得者問題と社会的排除 第 3回 公的扶助制度の歴史 第 4回 生活保護制度の仕組み 第 5回 同上 第 6回 生活保護基準と最低生活保障水準 第 7回 生活保護の動向 第 8回 低所得者対策(生活困窮者自立支援法等) 第 9回 同上 第10回 生活保護の運営実施体制と関係機関・団体 第11回 同上 第12回 同上 第13回 生活保護受給者・低所得者に対する相談援助活動 第14回 生活保護における自立支援 第15回 全体を通じてのまとめ						
【教科書】 『低所得者に対する支援と生活保護制度』2016 中央法規出版 (新・社会福祉士養成講座 第16巻)						
【参考書】 社会福祉(保育ライブラリー保育・福祉を知る)北大路書房 2014 担当教員執筆分 社会福祉士の合格教科書 2017 医学評論社 社会福祉士模擬問題集 中央法規						
【成績評価基準】 期末試験(70%)、授業への出席率及び授業中の学習態度及び課題対応など(30%)						
【メッセージ】 社会福祉士国家試験受験資格の必須科目です。担当教官は社会福祉士及び現場実践経験者、又、当科目は担当教官の専門分野でもある。社会福祉士を目ざして学習に取り組んで欲しい。						

区 分	専門科目－福祉マネジメント科目	担当教員	藤本 風明			
授業科目	障害者に対する支援と障害者自立支援制度					
英 訳	Support for people with disabilities and support system for those to be independent					
配当年次	2 年次	後期	必選別	選択	単位数	2 単位
【授業の概要】 障害があってもなくても、尊厳のある一人の人間としてすべての人が参加していくことのできる社会をつくるとはどういうことかを、理念や障害のある人が利用できる福祉制度・サービスを通じて考え、知識を得ること及び理解を深めることをめざす。パソコン(パワーポイント)活用						
【授業の目的】 障害者と取り巻く環境は、特に1981年の国際障害者年以降、障害当事者や関係者の粘り強い運動と、それを受け止める政府や官僚の、様々の取り組みを反映する形で、法律や仕組みが整備されてきている。社会福祉の制度や仕組みづくりには国民や当事者が運動していくことの大切さを学ぶ						
【到達目標】 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・政策について理解する。障害者福祉制度の発展過程について理解する。相談援助活動において必要となる障害者総合支援法や障害者の福祉・サービスに係る他の法制度について理解する。						
【準備学習(予習・復習)】 教科書の次回の章を、読んでくることを奨励する。 授業で配布したプリントを再学習すること、ノートを再検証することを奨励する。						
【授業計画】 第 1 回 障害者福祉論の、社会福祉・社会保障の分野にたつ位置 第 2 回 障害者を取り巻く社会情勢と生活実態 第 3 回 障害者の生活実態 第 4 回 障害とは 第 5 回 障害者を取り巻く法体系(障害者基本法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法など) 第 6 回 同上 第 7 回 同上 第 8 回 同上 第 9 回 障害者自立支援法Ⅰ(主として成人関係) 第 10 回 障害者自立支援法Ⅰ(主として障害児関係) 第 11 回 障害者服に係わる組織・機関の役割(福祉行政、障害者サービス、労働、教育) 第 12 回 同上 第 13 回 専門職の役割と実際(相談員、サービス管理責任者など) 第 14 回 多職種の連携・協働・ネットワークキング 第 15 回 全体を通してのまとめ						
【教科書】 『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』2015 中央法規出版(新・社会福祉士養成講座 第14巻)						
【参考書】 社会福祉(保育ライブラリー保育・福祉を知る)北大路書房 2014 担当教員執筆分 社会福祉士の合格教科書 2017 医学評論社 社会福祉士模擬問題集 中央法規						
【成績評価基準】 期末試験(70%)、授業への出席率及び授業中の学習態度及び課題対応など(30%)						
【メッセージ】 社会福祉士国家試験受験資格の必須科目です。担当教官は社会福祉士及び現場実践経験者、又、当科目は担当教官の専門分野でもある。社会福祉士を旨として学習に取り組んで欲しい。						

区 分	専門科目－福祉マネジメント科目	担当教員	竹中 健			
授業科目	高齢者に対する支援と介護保険制度					
英 訳	Social Support for the Elderly and Long Term Care Insurance					
配当年次	2年次 通年	必選別	選択	単位数	4 単位	
【授業の概要】 テキストを用いて、高齢者の抱えるさまざまな生活上の問題と社会的サポートのあり方について知識を習得する。さらに、介護保険制度の歴史や問題点、行政支援のあり方の問題についても考える。						
【授業の目的】 1 支援の必要な高齢者の生活の実態を理解する 2 介護保険制度およびその周辺の様ざま問題群を理解し、改善のための考察を深める						
【到達目標】 各回で扱う介護保険制度周辺の基礎的な用語、概念、制度導入の歴史、国家・行政の理念のあり方とその問題点を理解できるようになることを目標とする。						
【準備学習(予習・復習)】 毎回、授業の前までにテキストの各章をあらかじめ読んでおくこと。						
【授業計画】						
第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	介護保険制度の基本的枠組み			
第 2 回	高齢者の社会的理解	第 17 回	目的と理念			
第 3 回	高齢者の身体的理解	第 18 回	保険財政			
第 4 回	高齢者の精神的理解	第 19 回	制度の最近の動向			
第 5 回	高齢者の総合的理解	第 20 回	要介護認定の仕組み			
第 6 回	少子高齢社会と社会問題	第 21 回	保険給付			
第 7 回	高齢者を取り巻く諸問題	第 22 回	介護報酬			
第 8 回	高齢者保健福祉の歴史	第 23 回	地域支援事業			
第 9 回	高齢者保健福祉制度の展開	第 24 回	介護保険事業計画			
第 10 回	高齢者支援の関係法規	第 25 回	介護保険サービスの体系			
第 11 回	老人福祉法	第 26 回	居宅サービスと施設サービス			
第 12 回	高齢者の医療の確保に関する法律	第 27 回	介護予防サービスと地域密着型			
第 13 回	高齢者虐待防止法	第 28 回	国家及び行政の役割			
第 14 回	その他の関係法規	第 29 回	支援の方法と実際			
第 15 回	まとめ	第 30 回	まとめ			
【教科書】 『新・社会福祉士養成講座13 高齢者に対する支援と介護保険制度』社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版						
【参考書】 講義のなかで適宜紹介する						
【成績評価基準】 講義内で毎回実施するミニテストの結果（100％）を総合的に判断する						
【メッセージ】 毎回の講義までに、その日に扱う章のテキストを熟読しておくこと						

区 分	専門科目－福祉マネジメント科目	担当教員	松田 泰			
授業科目	社会保障					
英 訳	Socialsecurity					
配当年次	2 年次	通年	必選別	選択	単位数	4 単位
【授業の概要】 社会保障の理念や考え方・発生の経緯やその発展の歴史を振り返るとともに、現代の社会保障の仕組みと法制を学びます。						
【授業の目的】 日本国憲法は国民に健康的・文化的で最低限度の生活を営む権利を認めています。この権利を実現するため公的に準備された社会政策を総称して社会保障と呼びます。さまざまな事例を検証しながら、私たちが生きていくためにどんな政策や仕組みが準備されているのか学んでみましょう。						
【到達目標】 社会保障理念の把握 公的扶助制度や社会保険制度並びに社会福祉諸制度の理解と把握						
【準備学習(予習・復習)】 適宜提出する課題について事前の学習をお願いします。講義で使用するプリント・資料とテキストとの突合せを復習の形で取り組んでいただけると嬉しいところです。						
【授業計画】 第 1 回 オリエンテーション・・・社会保障と私たちの暮らし 第 2 回 社会保障の沿革と展開 第 3 回 社会保障の意味するもの 第 4 回 社会保障の理念 (1) その発展経過 第 5 回 社会保障の理念 (2) ノーマライゼーション 第 6 回 社会保障の理念 (3) 国際人権規約と日本国憲法 第 7 回 社会保障の政策的意味 所得再配分とビルトインスタビライザー 第 8 回 社会保障の法体系 第 9 回 社会保障を問い直してきた裁判闘争 (1) 朝日訴訟の意味するもの 第 10 回 社会保障を問い直してきた裁判闘争 (2) 生活保護裁判のいくつか 第 11 回 社会保障を問い直してきた裁判闘争 (3) 障害基礎年金不支給不当申し立て裁判 第 12 回 社会保障の制度的体系と課題 人口動態や労働環境の変化 第 13 回 社会保障制度の目的・対象・給付内容概論 (1) 公的扶助・児童手当・ 第 14 回 社会保障制度の目的・対象・給付内容概論 (2) 社会保険・社会福祉サービス 第 15 回 前期まとめ						
【教科書】 社会保障論社会福祉士養成講座テキスト 中央法規出版						
【参考書】 ノーマライゼーションの理論と政策 鈴木勉 萌文社 このまちで生きる あさみなみふりかえり隊 あいり出版 2012.2.25						
【成績評価基準】 レポート50 日常課題25 受講態度 25						
【メッセージ】 権利としての社会保障についてしっかり学びましょう。						

区 分		担当教員	
授業科目			
英 訳			
配当年次	年次	期	必選別
			単位数
			単位
【授業の概要】			
【授業の目的】			
【到達目標】			
【準備学習(予習・復習)】			
【授業計画】 第16回 社会保障の準備されていない世界 第17回 貧困の発見とそれへの社会的対応 第18回 こどもの権利条約と障害者権利条約 第19回 タウンゼントの社会的剥奪とアマルティア・センの潜在能力 第20回 社会保障のキイとなるいくつかの手法 現金給付・現物給付 第21回 社会保障体系概論 第22回 社会保障制度の体系 (1) 公的扶助—1 第23回 社会保障制度の体系 (2) 公的扶助—2 第24回 社会保障制度の体系 (3) 社会保険制度 第25回 社会保障制度の体系 (4) 年金保険制度 第26回 社会保障制度の体系 (5) 医療保険制度-1 第27回 社会保障制度の体系 (6) 医療保険制度-2 第28回 社会保障制度の体系 (7) 労働保険 第29回 社会保障制度の体系 (8) 介護保険 第30回 後期のまとめ			
【教科書】			
【参考書】			
【成績評価基準】			
【メッセージ】			

区 分	専門科目－福祉マネジメント科目	担当教員	小林 裕一郎			
授業科目	現代社会と福祉					
英 訳	Contemporary Society and Social Welfare					
配当年次	2年次	通年	必選別	選択	単位数	4単位
【授業の概要】 福祉国家や福祉政策の歴史の変遷等について学び、少子高齢化や非正規雇用の増大などが進行する現代社会における福祉について考える。						
【授業の目的】 社会福祉の原理や社会政策について学び、現代社会における社会福祉への理解を深める。						
【到達目標】 現代社会と福祉の関係について学習し、社会福祉の現状を理解する。						
【準備学習(予習・復習)】 前回の授業内容をよく理解しておくこと。						
【授業計画】						
第 1 回	社会の変化と福祉国家①	第 1 6 回	少子高齢化と福祉①			
第 2 回	社会の変化と福祉国家②	第 1 7 回	少子高齢化と福祉②			
第 3 回	社会の変化と福祉国家③	第 1 8 回	少子高齢化と福祉③			
第 4 回	福祉と福祉政策①	第 1 9 回	雇用情勢と福祉①			
第 5 回	福祉と福祉政策②	第 2 0 回	雇用情勢と福祉②			
第 6 回	福祉と福祉政策③	第 2 1 回	雇用情勢と福祉③			
第 7 回	小活	第 2 2 回	福祉政策の必要と資源			
第 8 回	福祉の思想と哲学①	第 2 3 回	福祉政策の理念と手法			
第 9 回	福祉の思想と哲学②	第 2 4 回	福祉政策と援助活動①			
第 1 0 回	社会政策と福祉政策①	第 2 5 回	福祉政策と援助活動②			
第 1 1 回	社会政策と福祉政策②	第 2 6 回	福祉政策と援助活動③			
第 1 2 回	社会政策と福祉政策③	第 2 7 回	福祉政策の国際比較①			
第 1 3 回	社会政策の発展過程①	第 2 8 回	福祉政策の国際比較②			
第 1 4 回	社会政策の発展過程②	第 2 9 回	福祉政策の国際比較③			
第 1 5 回	前期のまとめ	第 3 0 回	全体のまとめ			
【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編、2014、『現代社会と福祉【第4版】』中央法規出版。						
【参考書】 適宜指示する。						
【成績評価基準】 レポート提出(40%)、小テスト(40%)、授業への取り組み(20%)で評価する。						
【メッセージ】 社会の変化と福祉との関係について理解を深めよう。						

区 分	専門科目－福祉マネジメント科目	担当教員	松田泰			
授業科目	相談援助の理論と方法					
英 訳	Theory and method of social work					
配当年次	2 年次	通年	必選別	選択	単位数	8 単位
<p>【授業の概要】 相談援助に携わるにあたって、基本的な援助技術について学ぶ。援助技術について体系的に理解し、また、それぞれの援助技術の意義についての理解を深め、実践で役立てることができるように、事例を交えながら学習を進めていく。</p>						
<p>【授業の目的】 ソーシャルワーカーとしての基本的な態度・保持すべき倫理・技術や視点を習得する。</p>						
<p>【到達目標】 ソーシャルワーカーとして当事者・家族に対応できる力量を身に着ける。</p>						
<p>【準備学習(予習・復習)】 とくに振り返りをおねがいします。</p>						
<p>【授業計画】</p> <p>第 1 回 オリエンテーション ソーシャルワーカーの役割やその業務遂行上の理念について把握する。</p> <p>第 2 回 社会福祉援助技術総論① ソーシャルワーカーとして体得すべき技術やその意味を学ぶ。</p> <p>第 3 回 社会福祉援助技術総論② ソーシャルワーカーとして留意しなくてはならない倫理やモラル 1</p> <p>第 4 回 社会福祉援助技術総論② ソーシャルワーカーとして留意しなくてはならない倫理やモラル 2</p> <p>第 5 回 各論① 相談援助における人と環境の相互作用 生活問題の総合性 1</p> <p>第 6 回 各論① 相談援助における人と環境の相互作用 生活問題の総合性 2</p> <p>第 7 回 各論② 相談援助の対象 相談援助の対象となる人たちの姿とその捉え方 1</p> <p>第 8 回 各論② 相談援助の対象 相談援助の対象となる人たちの姿とその捉え方 2</p> <p>第 9 回 各論③ ささまざまな実践モデルの紹介 1</p> <p>第 1 0 回 各論③ ささまざまな実践モデルの紹介 2</p> <p>第 1 1 回 各論③ ささまざまな実践モデルの紹介 3</p> <p>第 1 2 回 各論④ エンパワメントの理解 1</p> <p>第 1 3 回 各論④ エンパワメントの理解 2</p> <p>第 1 4 回 ソーシャルワークの発展過程</p> <p>第 1 5 回 前期まとめ</p>						
<p>【教科書】 社会福祉士養成講座テキスト「相談援助の理論と方法 I・II」 中央法規出版</p>						
<p>【参考書】 このまちで生きる あさみなみふりかえり隊 あいり出版 2012.2</p>						
<p>【成績評価基準】 受講態度50 課題提出 20 演習参加 30</p>						
<p>【メッセージ】 とことん当事者により添えるソーシャルワーカーに育っていただければ！</p>						

区 分		担当教員	
授業科目			
英 訳			
配当年次	年次	期	必選別
			単位数
			単位
【授業の概要】			
【授業の目的】			
【到達目標】			
【準備学習(予習・復習)】			
【授業計画】			
第16回	各論⑤	相談援助の過程1	インテークの重要性とそのあり方 1
第17回	各論⑤	相談援助の過程1	インテークの重要性とそのあり方 2
第18回	各論⑥	相談援助の過程2	アセスメントの内容・方法・注意する点
第19回	各論⑦	相談援助の過程3	プランニングのあり方1 インフォームドコンセント
第20回	各論⑦	相談援助の過程3	プランニングのあり方2 ソーシャルインクルージョン
第21回	各論⑧	相談援助の過程4	プランニングのあり方3 支援計画・実施計画 モニタリングとアフターケア
第22回	演習①	傾聴	
第23回	演習②	ネットワーキング	
第24回	演習③	ケアマネジメント	
第25回	演習④	グループワーク 1	
第26回	演習⑤	グループワーク 2	
第27回	事例検討①	認知症の症状が出始めた高齢者	ケースマネジメントを中心に
第28回	事例検討②	家族全体に問題を抱えるケース	ネットワーキングを中心に
第29回	事例検討③	あたりまえの実現	ソーシャルアクションを中心に
第30回	全体まとめ	権利擁護とアドボカシー	
【教科書】			
【参考書】			
【成績評価基準】			
【メッセージ】			

区 分	専門科目－福祉マネジメント科目	担当教員	小川 真史		
授業科目	福祉行財政と福祉計画				
英 訳	Welfare financial system and welfare plan				
配当年次	3 年次 前 期	必選別	選択	単位数	2 単位
【授業の概要】					
国、都道府県、市町村の福祉における役割とその関係、財源、組織及び団体、専門職などについて、集团的な討論を通じて理解する。国家試験を意識し、教科書中心に授業を進める。					
【授業の目的】					
福祉の行財政の実施体制について理解する。福祉行財政の実際について理解する。 福祉計画の意義、目的、方法および留意点について理解する。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉の行財政の実施体制について学習し、福祉行財政の実際を理解する ・福祉計画の基礎を修得し、さらにその基礎知識による応用力を身につける 					
【準備学習(予習・復習)】					
<ul style="list-style-type: none"> ・前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること ・次回の項を読んでおくこと、不明点をチェックしておくこと ・授業の要点をまとめること 					
【授業計画】					
第 1 回 福祉行財政と福祉計画①					
第 2 回 福祉行財政と福祉計画②					
第 3 回 福祉行政①					
第 4 回 福祉行政②					
第 5 回 福祉財政①					
第 6 回 福祉財政②					
第 7 回 福祉行政の組織・団体と専門職の役割①					
第 8 回 福祉行政の組織・団体と専門職の役割②					
第 9 回 福祉計画の目的と意義①					
第 1 0 回 福祉計画の目的と意義②					
第 1 1 回 福祉計画の理論と技法①					
第 1 2 回 福祉計画の理論と技法②					
第 1 3 回 福祉計画の実際①					
第 1 4 回 福祉計画の実際②					
第 1 5 回 まとめ					
【教科書】					
河幹夫他 『福祉行財政と福祉計画』 中央法規出版 (新・社会福祉士養成講座 第10巻)					
【参考書】					
必携社会福祉士「専門科目編」年度更新版 筒井書房					
【成績評価基準】					
成績評価基準：授業中の小レポート(60%)、小テスト(20%)、授業への取り組み(20%) などから総合的に評価する。(評価には、第5回までの教科書準備と全課程の2/3の出席を要する)					
【メッセージ】					
社会福祉士国家試験受験資格の必須科目です。担当教員は社会福祉の実践経験を交えて講義する。 社会福祉士、福祉の担い手・社会福祉士をめざして学習してほしい。					

区 分	専門科目－福祉マネジメント科目	担当教員	小川 真史			
授業科目	保健医療サービス					
英 訳	Preservation of health medical care service					
配当年次	3 年次 前期	必選別	選択	単位数	2 単位	
【授業の概要】 保健医療サービスの基本的な構造と今日的な変化を理解する。医療ソーシャルワーカーとしての基本的な知識を学修する。国家試験を意識し、教科書中心に授業を進める。						
【授業の目的】 保健医療サービスの実施体制について理解する。保健医療サービスの実際について理解する。 保健医療サービスの意義、目的、方法および留意点について理解する。						
【到達目標】 ・保健医療サービスの実施体制について学習し、保健医療サービスの実際を理解する ・保健医療サービスの基礎を修得し、さらにその基礎知識による応用力を身につける						
【準備学習(予習・復習)】 ・前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること ・次回の項を読んでおくこと、不明点をチェックしておくこと ・授業の要点をまとめること						
【授業計画】 第 1 回 保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割① 第 2 回 保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割② 第 3 回 保健医療サービスを提供する施設とシステム① 第 4 回 保健医療サービスを提供する施設とシステム② 第 5 回 保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割① 第 6 回 保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割② 第 7 回 保健医療サービスの専門職の役割① 第 8 回 保健医療サービスの専門職の役割② 第 9 回 保健医療サービスの提供と経済的保障① 第 10 回 保健医療サービスの提供と経済的保障② 第 11 回 保健医療サービスにおける専門職の連携と実践① 第 12 回 保健医療サービスにおける専門職の連携と実践② 第 13 回 保健医療サービスにおける地域の社会資源との連携と実践① 第 14 回 保健医療サービスにおける地域の社会資源との連携と実践② 第 15 回 まとめ						
【教科書】 大内講一他 『保健医療サービス』 中央法規出版 (新・社会福祉士養成講座 第17巻)						
【参考書】 必携社会福祉士「専門科目編」年度更新版 筒井書房						
【成績評価基準】 成績評価基準：授業中の小レポート(60%)、小テスト(20%)、授業への取り組み(20%) などから総合的に評価する。(評価には、第5回までの教科書準備と全課程の2/3の出席を要する)						
【メッセージ】 社会福祉士国家試験受験資格の必須科目です。担当教員は社会福祉の実践経験を交えて講義する。 社会福祉士、福祉の担い手・社会福祉士をめざして学習してほしい。						

区 分	専門科目—福祉マネジメント科目	担当教員	岡 部 正 道			
授業科目	福 祉 環 境 論					
英 訳	Design for Supportive Environment					
配当年次	3 年次	前 期	必選別	選 択	単位数	2 単位
【授業の概要】 少子高齢社会と住環境の関係性を理解し、住環境整備に伴う当事者や家族と医療・福祉・介護・建築との調整のために必要な基本的な知識を学ぶ。同時に福祉住環境コーディネーター3級の受験対策を中心に行うため3級公式テキストに沿って展開する。						
【授業の目的】 福祉住環境コーディネーター3級検定試験の受験対策と住環境を中心に少子高齢社会との共生を考える。						
【到達目標】 高齢者や障害（児）者の住環境整備に関する制度や具体的な利用方法を修得する。						
【準備学習(予習・復習)】 テキストから該当項目を読んでおくこと。必要に応じて実施する小テストや配布プリントを整理し内容を理解する。						
【授業計画】 第 1 回 福祉環境論を学ぶにあたって～福祉住環境コーディネーターとは～ 第 2 回 暮らしやすい生活環境を目指して～少子高齢化社会と住環境～ 第 3 回 在宅生活の維持とケアサービス～介護保険制度・障害者自立支援法～ 第 4 回 健康と自立を目指して～ライフステージと自立～ 第 5 回 バリアフリーとユニバーサルデザイン～安心できる住生活とまちづくり～ 第 6 回 生活を支える様々な用具～共用品と福祉用具・自助具の理解～ 第 7 回 福祉用具と自助具の具体例 第 8 回 福祉用具による住環境整備～介護保険と福祉用具～ 第 9 回 安全・安心・快適な住まい～住まいの整備のための基本技術～ 第10回 生活行為別にみる安全・安心・快適な住まい～障害の理解と生活行為～ 第11回 住宅改修による住環境整備～介護保険と住宅改修～ 第12回 ライフスタイルの多様化と住まい 第13回 高齢者の介護予防の方法論 第14回 認定試験の振り返り 第15回 まとめ ＊講義の進行状況により変更することがあります。						
【教科書】 福祉住環境コーディネーター検定試験 3級公式テキスト						
【参考書】 福祉住環境コーディネーター3級検定試験過去問題集						
【成績評価基準】 期末試験（80％）、授業への取り組み（20％）						
【メッセージ】 福祉住環境コーディネーターは、高齢者や障害者に対して住みやすい住環境を整備するための調整役で、利用者や家族の立場に立った住環境を円滑にするための知識を得る民間検定です。3級認定試験にぜひとも合格して、2級へのステップにしてください。						

区 分	専門科目－福祉マネジメント科目	担当教員	小川 真史			
授業科目	福祉サービスの組織と経営					
英 訳	Organization and management of social welfare services					
配当年次	3 年次 後 期	必選別	選択	単位数	2 単位	
【授業の概要】						
福祉サービスを提供するための基本的な制度や理論を学び、実際の福祉サービス提供事業所が行っている活動とその問題点についても事例などを紹介し、理解を深める。国家試験を意識し、教科書中心に授業を進める。						
【授業の目的】						
福祉サービスに係る団体について理解する。福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論について理解する。福祉サービスの経営と管理運営について理解する。						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービスの実施体制について学習し、福祉サービスの実際を理解する ・福祉サービス経営の基礎を修得し、さらにその基礎知識による応用力を身につける 						
【準備学習(予習・復習)】						
<ul style="list-style-type: none"> ・前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること ・次回の項を読んでおくこと、不明点をチェックしておくこと ・授業の要点をまとめること 						
【授業計画】						
第 1 回 福祉サービスにおける組織と経営①						
第 2 回 福祉サービスにおける組織と経営②						
第 3 回 福祉サービスにかかわる組織や団体①						
第 4 回 福祉サービスにかかわる組織や団体②						
第 5 回 福祉サービスの組織と経営の基礎理論①						
第 6 回 福祉サービスの組織と経営の基礎理論②						
第 7 回 福祉サービスの組織と経営の基礎理論③						
第 8 回 福祉サービスの管理運営方法 (1) サービス管理①						
第 9 回 福祉サービスの管理運営方法 (1) サービス管理②						
第 1 0 回 福祉サービスの管理運営方法 (1) サービス管理③						
第 1 1 回 福祉サービスの管理運営方法 (2) 人事管理と労務管理①						
第 1 2 回 福祉サービスの管理運営方法 (2) 人事管理と労務管理②						
第 1 3 回 福祉サービスの管理運営方法 (3) 会計管理と財務管理						
第 1 4 回 福祉サービスの管理運営方法 (4) 情報管理						
第 1 5 回 まとめ						
【教科書】						
武居敏他 『福祉サービスの組織と経営』 中央法規出版 (新・社会福祉士養成講座 第11巻)						
【参考書】						
必携社会福祉士「専門科目編」年度更新版 筒井書房						
【成績評価基準】						
成績評価基準：授業中の小レポート(60%)、小テスト(20%)、授業への取り組み (20%) などから総合的に評価する。(評価には、第5回までの教科書準備と全課程の2/3の出席を要する)						
【メッセージ】						
社会福祉士国家試験受験資格の必須科目です。担当教員は社会福祉の実践経験を交えて講義する。社会福祉士、福祉の担い手・社会福祉士をめざして学習してほしい。						

区 分	専門科目－福祉マネジメント科目	担当教員	小川 真史		
授業科目	権利擁護と成年後見制度				
英 訳	Advocacy and adult guardianship organization				
配当年次	3 年次 後 期	必選別	選択	単位数	2 単位
【授業の概要】					
権利擁護の基本的な制度や理論を学び、実際の成年後見制度と成年後見人等の活動とその問題点についても事例などを紹介し、理解を深める。国家試験を意識し、教科書中心に授業を進める。					
【授業の目的】					
権利擁護について理解する。成年後見制度に係る基礎理論について理解する。成年後見制度の実際について理解する。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 権利擁護の実施体制について学習し、権利擁護の実際を理解する ・ 成年後見制度の基礎を修得し、さらにその基礎知識による応用力を身につける 					
【準備学習(予習・復習)】					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること ・ 次回の項を読んでおくこと、不明点をチェックしておくこと ・ 授業の要点をまとめること 					
【授業計画】					
第 1 回 相談援助の活動と法①					
第 2 回 相談援助の活動と法②					
第 3 回 成年後見制度①					
第 4 回 成年後見制度②					
第 5 回 成年後見制度③					
第 6 回 日常生活自立支援事業					
第 7 回 成年後見制度利用支援事業					
第 8 回 権利擁護に関わる組織・団体①					
第 9 回 権利擁護に関わる組織・団体②					
第 1 0 回 権利擁護に関わる専門職の役割①					
第 1 1 回 権利擁護に関わる専門職の役割②					
第 1 2 回 成年後見活動の実際①					
第 1 3 回 成年後見活動の実際②					
第 1 4 回 権利擁護活動の実際					
第 1 5 回 まとめ					
【教科書】					
鮎京真知子他 『権利擁護と成年後見制度』 中央法規出版 (新・社会福祉士養成講座 第19巻)					
【参考書】					
必携社会福祉士「専門科目編」年度更新版 筒井書房					
【成績評価基準】					
成績評価基準：授業中の小レポート(60%)、小テスト(20%)、授業への取り組み(20%) などから総合的に評価する。(評価には、第5回までの教科書準備と全課程の2/3の出席を要する)					
【メッセージ】					
社会福祉士国家試験受験資格の必須科目です。担当教員は社会福祉の実践経験を交えて講義する。社会福祉士、福祉の担い手・社会福祉士をめざして学習してほしい。					

区 分	専門科目－福祉マネジメント科目	担当教員	藤本 風明			
授業科目	地域福祉の理論と方法					
英 訳	Community Social Work Sociological Theory and Methods					
配当年次	3 年次	前・後期	必選別	選択	単位数	4 単位
【授業の概要】 地域福祉の形成過程について理解する。1990年以降の社会福祉のメインストリームは地域福祉といわれている。その仕組みと構造へアプローチする。又、生活困窮者支援を含めた地域福祉論へもアプローチする。						
【授業の目的】 地域福祉は、ノーマライゼーション理念やソーシャル・インクルージョン理念の具現化でもある。地域福祉の起り・理論・実践・仕組みをテキストや担当教員の実践事例などを紹介しながら学習を深める						
【到達目標】 社会福祉の分野で、地域福祉は独自のフィールド（カテゴリー）を有していない。誰でもが、生まれ育った地域で、老いて終了していくことを希望しているのだ。その実践はコミュニティソーシャルワーク（地域でのジェネラリストソーシャルワーク）なので。その理念、手法、技術を習得する。						
【準備学習(予習・復習)】 教科書の次回の章を、読んでくることを奨励する。 授業で配布したプリントを再学習すること、ノートを再検証することを奨励する。						
【授業計画】 第 1 回 地域福祉論の意味するもの 第 2 回 地域福祉論の実際の展開 第 3 回 新しい社会福祉システム（地域福祉の発展過程） 第 4 回 同上 第 5 回 地域福祉論の基本的な考え方（理論の広がり、地域自立生活支援、福祉圏域） 第 6 回 同上 第 7 回 地域福祉の主体と福祉教育 第 8 回 同上 第 9 回 行政組織と民間組織の役割と実際Ⅰ（地域福祉計画、社協、社会福祉法人） 第 10 回 同上 第 11 回 行政組織と民間組織の役割と実際Ⅱ（NPO、ボランティア、民生委員、保護司、企業など） 第 12 回 同上 第 13 回 コミュニティソーシャルワークと専門職の役割（考え方、展開とシステム、方法、専門職等） 第 14 回 同上 第 15 回 同上						
【教科書】 『地域福祉論の理論と方法』2015 中央法規出版（新・社会福祉士養成講座 第9巻）						
【参考書】 社会福祉（保育ライブラリー保育・福祉を知る）北大路書房 2014 担当教員執筆分 社会福祉士の合格教科書 2017 医学評論社 社会福祉士模擬問題集 中央法						
【成績評価基準】 期末試験(70%)、授業への出席率及び授業中の学習態度及び課題対応など(30%)						
【メッセージ】 社会福祉士国家試験受験資格の必須科目です。担当教官は社会福祉士及び現場実践経験者、又、当科目は担当教官の専門分野でもある。社会福祉士を旨として学習に取り組んで欲しい。						

区 分		担当教員	
授業科目			
英 訳			
配当年次	年次	期	必選別
			単位数
			単位
【授業の概要】			
【授業の目的】			
【到達目標】			
【準備学習(予習・復習)】			
【授業計画】 第16回 地域福祉への住民の3課と方法 第17回 同上 第18回 ソーシャルサポートネットワーク (事例学習も含める) 第19回 同上 第20回 地域における社会資源の活用・調整・開発 第21回 同上 第22回 地域における福祉ニーズの把握方法と実際 第23回 同上 第24回 地域トータルケアシステムの構築と実際 第25回 同上 第26回 地域における福祉サービスの評価方法と実際 第27回 同上 第28回 災害支援と地域福祉 (阪神・淡路大震災、東日本大震災被害者支援を通して) 第29回 日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方 第30回 全体を通してのまとめ			
【教科書】			
【参考書】			
【成績評価基準】			
【メッセージ】			